

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500516		
法人名	有限会社 サロット		
事業所名	グループホームさくら・ひまわり		
所在地	愛知県尾張旭市柏井町公園通573-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成31年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福祉サービス評価センター		
所在地	名古屋市中区四女子町1-59-1-902		
訪問調査日	平成31年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

元氣よく楽しく生活をして頂くために出来ることは何かを、スタッフと共に考え、柔軟な対応ができるように心がけています。昨年度よりビタミンB、B12、葉酸を取り入れる献立に変更し、白米から胚芽米に変更するなど、食事面にも配慮しています。春・秋・冬に利用者様の希望を聞きながら外出する機会を設けています。今年度は「昔そば打ち体験に行ったら楽しかった」と教えてくださった利用者様と蕎麦打ち体験に出かけたり、ご家族様から「母は海が大好きだけど、車椅子になったから連れて行ってあげられない」と言われ、スタッフが同行することにより、楽しい親子の時間が持てた。ご家族や利用者様の要望や想いを聞きながら「出来ること」を行いながら楽しめるような支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念「この町で自然に暮らし 笑顔のみられる介護」を掲げ、文字通り管理者、職員は利用者笑顔で接している。管理者は利用者、職員の事を常に考え、職員も利用者本位を考えて、チームワーク良く明るく行動するので、利用者のいきいきとした笑顔が多く見られるホームである。利用者は手洗い、毎食後口腔ケアを行い、リビングの空調は夏、冬とも、ほどほどにして、湿度は適切に保つようにして感染予防を行い、インフルエンザに五年以上感染していない。森林公園の傍で緑豊かな環境の中で生活し、毎日、午前、午後の散歩、近くのスーパーへの買い物、また初詣、花見、遠足など、外出する機会を多く設けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	休憩室に理念が掲示しており、全員で共有している。	法人の理念「笑顔の見られる介護」に「この街で自然に暮らし」を頭に加え、ホームの基本理念としている。毎日目にする、休憩室に掲示され、ユニット会議、スタッフ会議でも話し合いされ実践に繋げている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園の子供たちが来訪してくれる。運動会に招待されて交流を深めている。	町内会に加入し回覧板で地域の情報を得ている。自治会主催の夏祭り、運動会などで積極的に交流を図っている。近隣の保育園児との相互訪問、また中学生の職場体験などでも交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催したことがある。 町内会に入り、近隣住民と交流できる場を得るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に5回行っている。ご家族様や市役所職員が参加し、意見を伺えるようにしている。	年5回、市職員、地域住民、家族などの参加で実施され、ホームの状況や活動を報告している。外部評価結果の報告や取り組み、また、認知症の進行、変化などの課題について意見交換している。	地域住民の参加はあるが、福祉に関わりのある、民生委員にも出席の働きかけを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に参加していただき、意見を伺うようにしている。	市主催の講習会に参加、また、空情報、事業所情報など伝え連携を図っている。市職員も参加の事業者連絡会に定期的に参加して、意見交換、情報収集に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯のため、ご家族に了解を得て玄関は施錠している。他は解放されており、中庭には自由にでいりできる。 身体拘束の研修を行い、スピーチロックにも気をつけている。	玄関は防犯と交通事故防止のため、家族に了解を得て施錠しているが、中庭から自由に外出できる。法人及びホームでの身体拘束防止の研修など、積極的に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やスタッフ会議で話し合いや学びを深めるようにしている。利用者には常に尊敬の気持ちを持って接するように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方もみえる。研修などで制度の理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に不安な点や疑問点を伺いながら説明を行い理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に様子をお話し、意見を伺うようにしている。毎月の様子を手紙で送り、お知らせしている。	毎月の「ホーム便り」と、一人ひとりの「生活の様子」「私たちが気にしていること」を家族に手紙で知らせ、喜ばれている。家族の面会時には意見、要望などを聞き運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週2回のユニット会議や月1回のスタッフ会議で意見を出し合っている。	管理者は日頃から職員の意見や提案を汲み取っている、またユニット会議やスタッフ会議でも聞く機会を設けている。今年度も白寿のお祝い、遠足の運営など、職員の提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	前もって勤務や休みの要望を聞きそれを基にシフトを作っている。 年に1度代表を交えて要望など話をする機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内が見えるところに掲示してある。管理者から参加を勧めてくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者会や施設部会に参加し、同業者と情報交換や交流を図っている。他施設と交換実習を行うなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時から不安や要望を伺いながら、関係作りを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から話をする機会を設け、不安や要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメント時に本人や家族から話を伺い必要な支援について話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを共に行いながら、共に生活する人として関わる様心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りや忘年会、クリスマス会に参加していただき、共に支えるような関係性を持つようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の来訪がある。	友人、知人の訪問時には居室でゆっくりできるように支援している。家族の協力で外食、外泊の利用者もあり、関係維持に配慮している。馴染みの散歩場所や買い物など、出来る範囲内で支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を見ながらテーブルの配置をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も面会に伺ったり、現在の様子を聞いたりしている。退去後も相談にものっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話の中からも、思いを汲み取れるよう意識している。	管理者や職員は、利用者との関係が日頃から良く、何気ない会話から希望、意向を汲み取っている。困難な方は家族から聞いたり、日々の行動から思いを感じ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から話を伺い把握するように努めている。普段の何気ない会話から今までの様子などを把握するなど意識している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	人それぞれの生活リズムを大切にしている。出来ることを共にしながら生活ができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週2回のユニット会議で利用者様のケアの方法や体調の変化などを話し合っている。	週2回のユニット会議で一人ひとりの利用者の体調など常に確認している。介護計画は利用者、家族、職員の意見が反映され、6ヶ月毎に作成され、状態変化時は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや生活の様子をケース記録に残すとともに、週2回のユニット会議でケアの内容を話し合ったり、振り返ったりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の行きたいところや食べたいものなど、要望を聞き、なるべく叶えられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物を通し出かける機会を設けている。 ボランティアの方が来てくださったりもしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に継続して受診できるように支援している。 通う事が困難になった時は往診医に変更などのアドバイスをしている。	利用者、家族が希望する、かかりつけ医に受診できるよう支援している。家族に付き添いのお願いをして、無理の場合には職員が支援している。ほとんどの利用者が協力医の往診、往診専門医、訪問歯科にて受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に主治医や看護師、薬剤師に相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はお見舞いに伺い、安心して治療できるようにしている。早期退院を目指し、病院関係者と連絡を密に取るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から終末期に対する要望や不安なことを伺い、必要に応じて病院関係者と方向性を話すなどしている。	利用開始時に重度化や終末期について、家族に説明して、思いや意向を確認している。看取りは、経験もあり家族との話し合いを数回行い、家族の協力が得られれば、行う方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	電話付近に緊急時のマニュアルがある。 AEDの使い方の出前講座を開催してもらったこともある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練をしている。	春、秋の年2回屋間に防災訓練を行っている。近隣に民家は少なく協力は望みにくいが、平屋で中庭に即避難できるホームである。備蓄はスペースの関係で1日分備えている。	夜間想定避難訓練の実施や備蓄も最低3日分の確保を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ同士で話をする時はイニシャルを使うなどの配慮をしている。トイレの声かけは直接的な表現は避ける、声の大きさに配慮するなどをしている。	職員は利用者の尊厳、気持ちを考え声の大きさ、言葉使いなど、心がけており、失禁時などでは、人目に触れないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から思いを汲み取れるようにしている。ご自分の想いを引き出せるよう、個別でゆっくりお話を伺うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休息が必要な方はお昼寝をするなど、ご本人の意向を伺い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容師が定期的に訪問してくれている。季節に応じた服をご本人に選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に一度利用者とメニューを考え、季節を感じれる様なメニューを取り入れたりしている。調理や片付けも共に行っている。	週に一度は利用者の好みを取り入れ、雑祭などの節日には、季節を感じるメニューを取り入れている。利用者が出来る範囲で食器洗い、盛り付け、片付けなど職員と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夏場はゼリーを作るなど、一年を通して適切な水分補給ができるようにしている。飲み込みが心配な方は刻み、トロミ、ミキサー食など、状態にあったものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。うまくできなくなってきたら、出来る所はご本人にしていたき、奥歯など介助するなどをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケース記録から排泄パターンを把握し、その人にあったタイミングで声かけや介助をしている。	日中はトイレで排泄が出来るように、排泄パターンに合わせて介助や声掛けをしている。夜間はリハビリパンツ、ポータブルトイレの使用やトイレ誘導など、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、繊維の多い食品を取り入れるようにしている。こまめな水分補給と、運動をし、自然に排便できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆったりと入浴出来るよう、ご本人の希望を聞きながら入っていただけるようにしている。	入浴は一日置きを基本としているが、拒否が強い方は曜日、時間帯を変更するなど、柔軟に対応している。利用者の身体の状況でシャワー、足浴、清拭になる場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝が必要な方は夜間の睡眠の妨げにならない程度に昼寝をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書がカウンターにあり、一人一人のお薬情報が記載されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事を行ったり、買い物、ドライブ、散歩などで気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	南知多ビーチランドやなばなの里のイルミネーションに出掛けるなど、本人の希望を聞きながら外出する機会を設けている。ご家族様と海を見に行くなど、支援をしている。	天候の良い日は、利用者の体調に合わせて午前、午後、散歩に出かけている。利用者の希望、要望を聞き買い物、遠足など出かけている。遠方の外出には家族の協力を得ながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分が管理できる金額をお財布に入れて持っている方もいる。ご本人が管理できなくても、預り金を外出時に持っていく、買い物をしたりできるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もみえる。手紙を書いたら一緒にポストに行くなどをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの周りに季節の花を植えたり、季節に合った壁飾りをかけるなどしている。廊下には外出時やイベントの写真を貼っている。トイレの場所をわかりやすいよう張り紙や矢印を貼っている。	食堂兼リビングは日差しが差し込み明るく、温度、湿度は季節に合わせて調整しており、五年間インフルエンザがなく、感染予防になっている。玄関には季節の花を置き、廊下には行事の写真などを掲示、また、トイレ場所は分かりやすく工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様の食席を一緒にしたり、テレビ前にソファを置くなど思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具を持ち込んでいただき、好みの飾りつけをするなど、心地よく過ごせるようにしている。	居室の表札に写真と名前を表示して、部屋を間違わないように工夫している。自宅で使用の家具、家族写真、趣味の物など持参し、居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の出入り口に写真入りの表札を付けている。 廊下やトイレに手すりがあり、安全に行き来出来るようにしている。		